

## 安全・注意情報



霧の日のようす

### 火山ガスに注意!

大涌谷周辺では、人体に有害な火山性ガス(硫化水素、二氧化硫)が発生しています。臭いが強いときや、目・鼻・喉に刺激を感じる時は危険です。屋外に入るかその場から立ち去ってください。

### 屋外の観光ができない方

- アレルギー性ぜん息の方
- 気管支疾患の方
- 呼吸器(肺)疾患の方
- 心臓疾患の方
- 心臓ペースメーカーを装着している方
- 体調不良の方

また、妊娠中の方、新生児・乳幼児やアレルギー体質などをお持ちの方、ご高齢の方は、ごく微量でもぜん息等の発作をおこす可能性がありますので、屋外に出ることをとりやめることも含め充分ご確認ください。

※24時間体制で火山性ガスの観測を行っています。火山性のガスの噴出が特に強いときは、避難等を指示する放送が流れますので、指示にしたがってください。

### ●火山性ガスによる濃度基準

区分	二氧化硫(SO <sub>2</sub> )	硫化水素(H <sub>2</sub> S)	措置
注意喚起	0.2ppm以上	5ppm以上	注意喚起放送
注意情報	5ppm以上	10ppm以上	屋内退避・自然研究路の閉鎖
警戒情報	10ppm以上	50ppm以上	大涌谷からの避難

### 強風に注意!

大涌谷は標高1,040m。霧に包まれる日が多く、夏といえども曇りや雨の日は肌寒く長袖、雨具が必要です。強風が吹きつける日も多いため、防寒着や上に羽織るものの持参をお勧めします。

### 大涌谷の安全のために

～箱根山火山防災協議会～

箱根地域では、行政や警察および関係者による「箱根山火山防災協議会」を設置し、大涌谷をはじめ箱根町内の火山に関する安全対策に取り組んでいます。

## 大涌谷自然研究路について

大涌谷自然研究路では、噴煙地から黒たまご蒸場まで、往復約700mの遊歩道を監視員2名が引率し、団体行動での散策が可能になりました。通常、立入りができない火山活動区域を歩き、間近で生きている箱根火山の息吹を感じることができます。この貴重な体験に参加してみませんか?

### 見学方法

#### 【見学日程】

1日4回(1回約40分間)、各回上限30名の入場を毎日実施します。

※事前申し込みが必要です。ヘルメット着用(貸出し有)

#### 【参加対象者】

小学生以上、10名以上の団体は不可。

※自力歩行可能な方(緊急時は走って逃げられる方)

#### 【安全対策費】

1名/500円(安全対策に活用する協力金)

※見学開始20分前までに、大涌谷インフォメーションセンターで支払。

※ぜんそく等の呼吸器疾患や心臓疾患の方、体調不良の方は不可。

#### 【申込方法】

ホームページ「箱根全山」で事前申込が必要です。

※詳細は、箱根町観光協会ホームページ「箱根全山」。

※主催：大涌谷園地安全対策協議会

### 安全対策について

◆火山ガス、土石流の24時間計測を実施しています。

◆直径30cmの噴石の飛来に耐えるシェルターを7ヶ所設置しています。

◆緊急時に備え、シェルター内倉庫にはガスマスク、ゴーグル等の非常用品を常備しています。

※温泉地学研究所などの研究機関により、箱根火山の活動を常時監視していますので安心して見学が可能です。

◆火山の状況により、引率入場を中止することがあります。

◆気象条件等、雨が降っているときや強風、濃霧、雷、積雪、震度3以上の地震などの場合にも中止します。

◆実施・中止は、ホームページ「箱根全山」からご確認ください。

## 大涌谷駐車場



<http://www.kanagawa-park.or.jp/owakudani/>

【営業時間】 9:00～16:20(3～11月)・9:00～16:00(12～1月)(出場16:40まで)

\*出場時間を過ぎると車を出せなくなりますので、時間までにお戻りください。

特に、ロープウェイに乗り継ぎの方はご注意ください。

\*悪天候時には、時間内であっても駐車場を閉める場合があります。

【料金】 大型/1,580円 普通/530円 二輪車/110円

【所在地】 足柄下郡箱根町仙石原1251-1 ※予約はできません。

## 箱根ジオミュージアム

<http://www.hakone-geomuseum.jp/>

箱根火山の魅力について、たくさんのジオコラムや体験型の展示、岩石標本などで、わかりやすく学んだあとは、屋外フィールドの大涌谷で火山の息吹を実感しよう!

【開館時間】 9:00～16:00(年中無休)

※天候等により臨時休館、営業時間変更あり。

【利用料金】 1名100円 ※就学前児童は無料

【所在地】 足柄下郡箱根町仙石原1251 「大涌谷くろたまご館」1階

【お問い合わせ】 箱根ジオミュージアム TEL:0460-83-8140

## 周辺施設情報

- 大涌谷くろたまご館 TEL:0460-84-9605
- 箱根ロープウェイ 大涌谷駅 TEL:0460-84-8437
- 箱根登山ケーブルカー 早雲山駅 TEL:0460-82-2117
- 箱根登山電車強羅駅 TEL:0460-82-2049
- 伊豆箱根バス TEL:0465-22-3166
- 箱根観光船桃源台営業所 TEL:0460-84-8618
- 環境省箱根ビジターセンター TEL:0460-84-9981
- 神奈川県自然環境保全センター箱根出張所 TEL:0460-84-9121

■土、日、月曜日、ゴールデンウィーク、夏休み、紅葉シーズンなどは周辺道路がたいへん混雑し、1時間以上渋滞することもあります。

■混雑を避けたい方は、時間に余裕を持って早めのご来場をお勧めいたします。

\*冬季は、凍結注意! 積雪もあります。冬の大涌谷では冬タイヤをお勧めいたします。

\*強風注意! 駐車場は吹きさらしの場所のため、強風による車のドアの開閉時にトラブルが多発しています。

運営:(公財)神奈川県公園協会  
横浜市中区扇町3-8-8 関内ファーストビル6階  
TEL:045-651-0931 FAX:045-651-0932  
URL <http://www.kanagawa-park.or.jp/>

(株)アスコット 2021.12

## 富士箱根伊豆国立公園

# 大涌谷

火山としてのダイナミックな箱根が、体感できます!



## OWAKUDANI

### 大涌谷園地への立入時間

9:00～17:00

※車の混雑状況により、立入制限ゲートを16:00前に閉めることがあります。

駐車場営業時間 9:00～16:20(2～11月)

9:00～16:00(12月・1月)

※駐車場ご利用の方は、営業時間内までにお入りください。

※駐車場からの出庫は16:40までとなります。

※車両は17:00までに立入制限ゲートから出る必要があります。

ロープウェイ運行時間 9:00～17:00(2～11月)

9:00～16:15(12月・1月)

※運行時間は変更となる場合があります。

事前にホームページなどでご確認ください。



# 地球の息吹を感じよう!

緑豊かな箱根の中で、ここ大涌谷だけはまるで様相が違います。赤茶けた地肌、立ち枯れた木々……、荒涼とした風景が広がります。冠ヶ岳(標高1,409m)しかしこれもまた生きていく地球の姿。地球の息吹を体感してみませんか?



雨や霧、強風などの悪天候時、火山ガスの噴出が強いときは、自然研究路の引率入場は中止します。

「大涌谷くろたまご館」  
2F くろたまSHOP、わくわくキッチン  
1F 箱根ジオミュージアム  
大涌谷インフォメーションセンター



箱根ジオミュージアム  
至 早雲山・強羅



## 物知りコラム1

大涌谷は、およそ3,000年前の噴火によって神山(標高1,438m)が崩壊してできました。現在でもあちこちから硫化水素を含む噴気が上がっています。そのため、樹木は立ち枯れ、岩石は粘土化して赤茶けた山肌が見えています。沸き立つ湯釜、白煙を吹き上げる噴気孔など、火山のダイナミックな活動の様子を観察できます。



硫黄荒原と呼ばれる噴気地帯の周辺には、高い地温や、酸性土壌に強い植物が生息しています。



噴気の様子



アセビ、スキの草原

酸性に強い植物

噴気地帯に近いほど酸性に強い植物が見られます

 コアジサイ	 ノリウツギ
 イタドリ	 イオウゴケ

## 箱根火山の成り立ち

## 物知りコラム2

箱根火山は、直径約11kmのカルデラとなっているのが特徴です。カルデラとは、ポルトガル語で大きな鍋のことを指しますが、ちょうど鍋の底に仙石原や芦ノ湖があります。箱根火山のカルデラは、20万年前後と8~6万年ごろの2度の時期に

起きた度重なる大噴火で、徐々に今の形になりました。鍋の真ん中にあるのが神山や駒ヶ岳など中央火口丘と呼ばれる山々で、大涌谷は神山の中腹にあります。

①40~23万年前  
かつてはいくつもの火山からなる火山群をつくっていました。



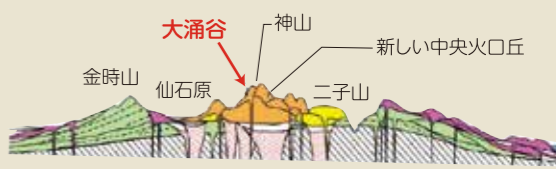
④8~6万年前  
また、大きな噴火が相次ぎ小型カルデラがいくつかができました。



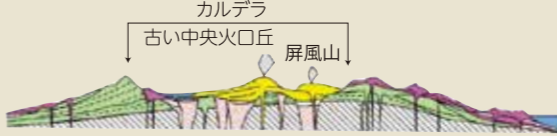
②23~13万年前  
大きな噴火が相次ぎ、小型のカルデラがいくつも形成されました。



⑤6万年前~現在  
新しくできたカルデラの中に神山や二子山が形成されました。



③13~8万年前  
小さなカルデラが寄り集まって、今見える大きなカルデラとなりました。その中に屏風山などの溶岩ドームができました。



資料提供:日本地質学会 作図:長井雅史